

ものづくりで社会に貢献する デジタル人材の育成



名古屋市立工芸高等学校
Nagoya City Industrial Arts High School



公立
工業科

工務部主任・情報科教諭

加藤 ひとみ

取り組みの背景・目的

近年、生成 AI の急速な発展により、創造的な分野からビジネス、日常生活に至るまで、社会全体に大きな変革がもたらされている。デザインや製造などの「ものづくり」の現場でも、既に自動生成する技術によって現場が大きく変化している。

また、本校は各科の特色を活かした地域連携（コウゲイデザインオフィス）に取り組んでおり、探求的な学びの場がある。さらに活発な学びの場とするデザインの拠点として、他学科の生徒同士や地域社会とコミュニケーションを活性させる環境づくりが必要である。

目的

- ① 生徒が生成 AI を活用した新しい表現や製作技術を習得する
- ② 生徒が地域貢献に繋がる実践的なスキルを習得する



これまでの取り組み

生成 AI を活用できる「場」づくり

- ・コンピュータ（Apple）を最新機器に更新
- ・3DプリンタやVR機器など新たな機材を導入



生成 AI を活用できる「ひと」づくり

- ・基礎的知識の理解へ生徒向けと教員向けの講座を実施
- ・生徒が生成 AI を活用するために保護者の同意を得た



現状

課題

- 生成 AI を活用できる場ができた
- 各科の特色に合ったソフトを導入予定
- 各科の特色に合ったソフトの活用
- 他学科の生徒同士、または地域社会とコミュニケーションを活性化する場づくり

- 生成 AI を理解し自分事であることを実感した生徒の増加
- 生成 AI を活用していきたいと思う生徒と教員の増加
- 「ものづくり」に生成 AI を活用するにあたっての著作権などの法律や情報倫理についての教育
- 他学科の生徒同士によるコミュニケーションの活性化

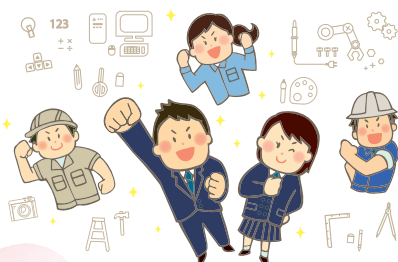
生徒が生成 AI 活用した「リスキリング」ができる入り口に来ている

今後の展望

各科のスキルを時代に合ったものへ更新し続ける

- ・生成 AI を活用しているものづくりの企業から講師を招いた講義
- ・工芸高校をコミュニケーションが活性化する場として活用
- ・学科の枠を超えた地域連携の取り組みの発展 など

生徒が主体になってリスキリングができるようになり
創造力と技術力を兼ね備えた人材として
地域社会に貢献できるようになる



社会を面白くするのは、
「工芸生」だ